

# 新たな対策技術の導入による ニホンザル被害の軽減

湖北農業普及指導センター

## 【普及活動のねらい・対象】

湖北地域では、集落単位の獣害柵の設置が進み、平成 24 年をピークに獣害による農産物の被害金額は減少していますが、近年、ニホンザルによる被害金額は横ばいとなっています。特に、ニホンザルの米原 C 群(約 40 頭)は、令和 4 年の調査で新たに確認された群れで、加害レベルが高く、出没域には被害金額が大幅に増加している集落もあります。

そこで、米原 C 群出没域集落に対して、効果の高い新技術について周知し、被害対策の普及を図ることとしました。

## 【普及活動の内容】

新技術であるワイヤーメッシュ柵に後付けできる電気柵について、米原市まち保全課と連携し、展示ほ設置を通じた研修会を行いました。C 群出没域の 5 集落には個別に訪問し、新技術の説明会を開催しました。また、同集落を基点に、新たな追い払い技術として注目されるドローンを使った実証を行いました。



写真1 集落での新技術の説明会

12 月には湖北地域で農作物被害 5 万円以上が報告されている集落を対象に研修会を開催し、当センター及び獣害対策アドバイザーから現状と課題、具体的な対策を説明しました。

## 【普及活動の成果】

新技術の説明会を開催した 5 集落のうち、2 集落の 1 個人・1 団体から新技術の設置に必要な資材の問い合わせがあり、1 団体については 3 月に設置されました。

10 月、11 月に行ったドローンによる追い払い実証では、ドローンに対するサルの反応の映像を分析し、ドローンから発生した音声等に反応して、忌避行動を示すことが確認できました。

12 月の研修会に出席された 8 集落の区長や農業組合長は、アンケートに、「サルに効果のある柵があることを理解できた」と回答され、C 群出没地域以外の集落にも新技術を周知することができました。

### ◎対象者の意見

研修会に出席して、サルに効果的な電気柵を設置したいと思い、資材の見積もりを進めている。(A 集落の団体の代表者)